

あなたに届けたい 歌のこころと 熱い思いを

オープニング ＜ コーラス水輪 男声合唱団昂 合同 ＞

このみち

金子みすゞ作詩 石若雅也作曲

このみちの先には 大きな森があらうよ
ひとりぼっちの榎よ このみちを行こうよ

このみちの先には 大きな海があらうよ
蓮池の蛙よ このみちを行こうよ

このみちの先には 大きな都があらうよ
さみしそうな案山子よ このみちを行こうよ

このみちの先には 何か なにかあらうよ
みんなで みんなで行こうよ
このみちを行こうよ このみちを行こうよ

第一部前半 ＜ コーラス水輪 ＞

夏の思い出

江間章子作詞 中田喜直作曲

夏が来れば思い出す はるかな尾瀬 遠い空
霧の中に浮かび来る やさしい影 野の小径
水芭蕉の花が 咲いている
夢見て咲いている 水のほとり
しゃくなげ色に たそがれる
はるかな尾瀬 遠い空

夏が来れば思い出す はるかな尾瀬 野の小道
花の中にそよそよと 揺れゆれる 浮島よ
水芭蕉の花が 匂ってる
夢見て匂っている 水のほとり
まなこつぶれば 懐かしい
はるかな尾瀬 遠い空

日々草

星野富弘作詩 松井孝夫作曲

今日も一つ うれしいことがあった
今日もまた一つ 悲しいことがあった
笑ったり泣いたり 望んだり諦めたり
憎んだり 愛したり

そして これらの一つ一つを
柔らかに 包んでくれた
※ 数え切れないほど たくさんの
平凡なことがあった(繰り返し)

いのちの歌

Miyabi 作詞 松村崇継作曲

生きてゆくことの意味
問いかける そのたびに
胸をよぎる 愛しい人々の温かさ
この星の片隅で 巡り会えた奇跡は
どんな宝石よりも 大切な宝物

泣きたい日もある 絶望に嘆く日も
そんな時そばにいて
寄り添うあなたの影
二人で歌えば 懐かしく甦る
故郷の夕焼けの
やさしい あのぬくもり

本当に大事なものは 隠れて見えない
ささやかすぎる 日々の中に
かけがえない 喜びがある

いつかは誰でも この星にさよならを
するときに来るけれど
いのちは 継がれて行く
生まれてきたこと 育ててもらえたこと
出会ったこと 笑ったこと
その全てに ありがとう
この命に ありがとう

Birthday

さだまさし作詞作曲

※ 幸せをありがとう ぬくもり届きました
何よりあなたが 元気でよかった
宝物をありがとう 思い出届きました
生まれてきてよかった

誕生祝いを ありがとう
忘れずにいてくれて ありがとう
古い時計が 時を刻むように
ゆるやかに 年老いて行けたらいいなどと
この頃 思うようになりました

誕生祝いを ありがとう
忘れずにいてくれて ありがとう
誰かが 私の生まれ日のこと
覚えていてくれると 一人きりではないと
とても勇気が 湧いてくるのです
※ 繰り返し

やさしい手紙を ありがとう
気にかけてくれていて ありがとう
下書きの跡が 胸に染みます
こんな私のために こんなにたくさんの
あなたの時間を くれたのですね

心から どうもありがとう
忘れずにいてくれて ありがとう
季節の花を少し 送ります
あなたのあの笑顔を 飾るには足りないけど
せめて私の心 添えて
※ 繰り返し

星影のエール

Green 作詞作曲 西條太貴編曲

泣いて生まれて 響く命
きつとうれしくて 笑っているんだ
僕らはきっと 出会うでしょう
手を引き背を押し 出会うでしょう

きつといつか今日の日も 意味を持って
ほーら 耳を澄ませば
星の見えない日々を 越える度に
互い照らすその意味を 知るのでしょうか
愛する人よ 親愛なる友よ
遠くまで響くはエール

明日はきっといい天気 青き春もまたそうであれ
白紙の物語に何を描くのか 誰と描くのか
星の見えない日々で 迷う度に
誰か照らすその意味を 知るのでしょうか
愛する人よ 親愛なる友よ あなたこそがエール

昔々から ほら 千年もその前も
僕ら迷わぬように 星に名前をつけた
誰よりも私には輝く星 ほーら夜明け前の空
時に私の後ろに光る星
伸びた影と 寄り添って歩いてく
いつまでもエール

朝も昼も夜もずっと そこにある
暗闇にほーら 響け一番星
愛する人や友と呼べる人に 出会えーる
愛する人よ 親愛なる友よ
星影に響くはエール

第一部後半 < 男声合唱団「昴」 >

いざ起て戦人よ

藤井泰一郎訳詞 J.マクグラナハン作曲

いざ起て戦人よ 御旗に続け
雄々しく進みて 遅るな仇に
歌いて進めよ 歌声合わせて
潮のごとくに 正義の御神は 我らの守り
我らの守り 我らの守り
正義の御神は 我らの守り

忘るな勲し 我らの父祖の
続けよ同胞 守れこの地を
歌いて進めよ 歌声合わせて
潮のごとくに 正義の御神は 我らの守り
我らの守り 我らの守り
正義の御神は 我らの守り

ともしび イサコフスキー詞 楽団カチューシャ訳
＜ソロ 千秋昌弘＞ ブランテル作曲 本並美德編曲

夜霧の彼方へ 別れを告げ
雄々しき益荒男 出でて行く
窓辺に瞬く ともしびに
尽きせぬ乙女の 愛の影

戦いに結ぶ 誓いの友
されど忘れ得ぬ 心の町
思い出の姿 今も胸に
愛しの乙女よ 祖国の灯よ

優しき乙女の 清き思い
海山遥かに 隔つとも
二つの心に 赤く燃ゆる
黄金のともしび 永遠に消えず

鶴 ガムザトフ作詞 坂山やす子日本語詞
フレンケリ作曲 リリツペンコ編曲

アアアア・・・
※ 私はふと思う 傷つき還らぬ兵士ら
異国の土に眠り いつしか白い鶴に
鶴は昔から今も 訪れては声伝う
それ故か いつも切なく
声もなく 空見あげる

アアアア・・・
日暮れの霧の空を 疲れた渡り鳥飛ぶ
あの列の中の隙間は もしや私のために
やがて 鶴の群れとなり
青い夕もやを 飛び立とう
大空へ鶴の言葉で 世の人々 偲びつつ
アアアア・・・
※ 繰り返し

歓びのナーダム 巴音吉日嘎拉作詞 色恩克巴雅尔作曲
社兆植編曲 本並美德日本語詞

ナーダムだ ナーダムだ
モンゴルの夏は
ナーダムに 燃えるよ ホッホー
男も女も 互いに出会える
ナーダムの祭りだよ ホッホー ホッホホー
胸は躍るよ ナーダム

広い草原は 山あり谷あり
荒馬の背に 若者 空駆け 川飛び越え
胜了 胜了 漂亮 漂亮
胜了 胜了 漂亮 漂亮
ハイハイハイ ハイハイハイ・・・

ナーダムだ ナーダムだ
モンゴルの夏は
ナーダムに 燃えるよ ホッホー
男も女も 恋する季節は
ナーダムの祭りだよ ホッホー ホッホホー
胸は躍るよ ナーダム

広い草原は 溢れる人波
真中に向き合う 二人の若者
ハッケヨイ ハッケヨイ 漂亮 漂亮
のこった のこった 漂亮 漂亮
ハイハイハイ ハイハイハイ・・・

豊かな故郷
全ての者達の しあわせ続けと
ナーダムの祭りを 歓び称えよ
歓び歌えよ
歌おう 歌おう アー

仕事の歌（独唱 千秋昌弘）

ロシア革命歌 ＜シャリアピンの歌を元に＞ 森二三編曲

悲しい歌うれしい歌 いろいろ聞いたけれど
忘れられぬ歌は一つ それこそ仕事の歌
※ エーフ ドッピーヌカ ウーフニエム
エーフ ゼリヨーナ サマー パイジョート
パジョールニエム パジョールニエム
ダ ウーフニエム

親は倒れ 死の間際に 息子に残すものは
貧しい暮らし 辛い運命 悲しい仕事の歌
※ 繰り返し
夜の闇も やがては去り 苦しむ民は目覚め
皇帝どもを倒す時に 歌わん仕事の歌
※ 繰り返し

人間の歌

山ノ木竹志作詞作曲 吉田桂子編曲

傷つき倒れた 友の背に
まなざし注ぐ 女（ひと）はいるか
病みつかれた 乙女のその手に
ぬくもり添える 男（ひと）はいるか
生きる哀しさ翼にかえて 人の歓び歌に託して
私は歌う希望の歌 とともに歌おう 人間の歌

くずおれた痛みを 笑顔に包む
職場の同僚（なかま）を 信じているか
死を択んだ 組合員（なかま）の思いを
心に温めて 闘っているか
生きる苦しさ 翼にかえて
人の気高さ 歌に託して
私は歌う仲間の歌 とともに歌おう 人間の歌

人は微笑み 歌があふれる
そんな町を ここに求めて
痛み分け合い 楽しさ分かち
歩いて行きたい 人間らしく
※ 生きて 生きて 生き抜いて
生きて 生きて 生き通して
私は歌う自由の歌 とともに歌おう 人間の歌
※ 繰り返し
私は歌う人生の歌 とともに歌おう 人間の歌

昂

谷村新司作詞作曲 男声合唱団昂編曲

目を閉じて 何も見えず
哀しくて 目を開ければ
荒野に向かう道より
他に見えるものはなし
ああ 砕け散る 運命の星たちよ
せめて密やかに この身を照らせよ
我は行く 蒼白き頬のままで
我は行く さらば昂よ アアア・・

呼吸をすれば 胸の中
風は 吹き続ける
されど わが胸は熱く
夢を追いつけるなり
ああ さんざめく 名もなき星たちよ
せめて鮮やかに その身を終われよ
我も行く 心の命ずるままに
我も行く さらば昂よ アアア・・・

ああ いつの日か 誰かがこの道を
ああ いつの日か 誰かがこの道を
我は行く 蒼白き頬のままで
我は行く さらば昂よ
我は行く さらば昂よ

フィナーレ < コーラス水輪⇒ 男声合唱団昂⇒ ゲスト北村敏則さん⇒ 最後は出演者全員で >

川の流れのように

秋元康作詞 見岳章作曲 1 番/信長貴富編曲・2 番/男声合唱団昂編曲

知らず知らず 歩いてきた 細く長いこの道
振り返れば はるか遠く 故郷が見える
でこぼこ道や、曲がりくねった道
地図さえない それもまた人生

ああ 川の流れのように
ゆるやかに いくつも時代は過ぎて
ああ 川の流れのように
止めどなく 空が黄昏に染まるだけ

生きることは 旅すること 終わりのないこの道
愛する人 そばに連れて 夢探しながら

雨に降られて ぬかるんだ道でも
いつかはまた 晴れる日が来るから

ああ 川の流れのように
穏やかに この身を任せていたい
ああ 川の流れのように
移りゆく季節 雪解けを待ちながら

ああ 川の流れのように
穏やかに この身を任せていたい
ああ 川の流れのように
いつまでも 青いせせらぎを 聞きながら